

当たり前の日常

沖縄県立鏡が丘特別支援学校高等部一年 當間 叶望

七十七年前の沖縄

四人に一人が亡くなったという
安心して暮らせる場所はどこ？
生き抜くため、家族はバラバラ
遠い場所で孤独に過ごす生活

笑い合える

助け合える
家族と生活できることが、幸せ

この幸せを

これから生まれてくる子どもたちに
つなげていく

家族を大切に

当たり前の日常に

感謝しながら生きていこう

一緒に暮らしていても

自分の命を守ることだけで精いっぱい

目の前で人が死んでいく

赤ちゃんの泣き声さえ

聞こえてはいけない

子どもも大人も命を守れない

戦争で負った、一生消えない傷

戦争で負った、一生癒えない傷

それは私たちが背負っていく傷

二度と子どもたちに負わせていけない傷

家族の中の一人でも失っていたら、

私はきつと立ち直れない

数えきれない悲しみ

礎に刻まれた名前に

手を合わせる人々

平和を願う

平和を求め

立ち向かってきた人々

平和な沖縄を作ってきた人々

そのおかげで私達の日常が

今ここにある

家族がここにいる

家族と一緒に過ごせる